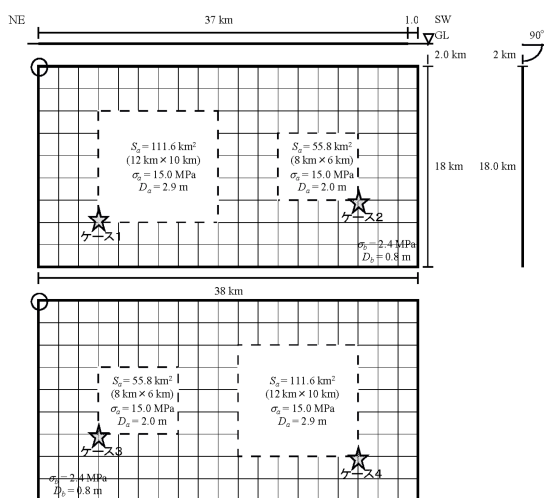


## 地震諸元

コード	断層名称	断層面のずれの向き		$M_j$	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
10702	広島湾-岩国沖断層帯	右横ずれ断層	長期評価	7.4 程度	約 37km	不明	不明	下限概ね 20km
			モデル化	$M_w$ 6.9	38km	18km	90 度	2-20km

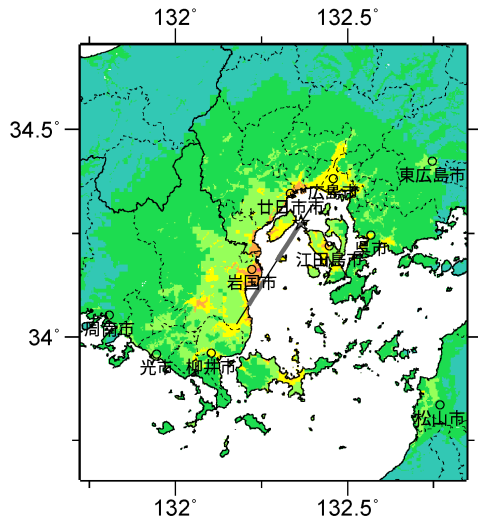
### 強震動予測のための断層モデルのパラメータ

	長期評価	設定値	
		平均ケース	最大ケース
平均活動間隔	不明	14700年	14700年
最新発生時期	不明	(ポアソン過程)	(ポアソン過程)
30年発生確率	—	0.20%	0.34%
50年発生確率	—	0.20%	0.34%
断層帯原点	(北東端) 北緯 34°19' 東経 132°24' (南西端) 北緯 34°02' 東経 132°11'	—	—
活断層長さ $L$	約 37 km	37 km	—
マグニチュード $M$	7.4 程度	7.4	—
巨視的震源パラメータ	設定方法	—	—
断層モデル原点	地中の上端における北東端	北緯 34.3206° 東経 132.3997°	
走向 $\theta$	長期評価の端点を結ぶ方向	N212.5°E	
傾斜角 $\delta$	「不明」	90°	
すべり角 $\gamma$	「右横ずれ断層」	180°	
断層モデル上端深さ	微小地震の発生と地震基盤深さを参考	2 km	
断層モデル長さ $L_{model}$	手続き化の方法に従い設定	38 km	
断層モデル幅 $W_{model}$	手続き化の方法に従い設定	18 km	
断層モデル面積 $S_{model}$	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	684 km <sup>2</sup>	
地震モーメント $M_0$	$\log M_0 = 1.17M + 10.72$	2.71E+19 Nm	
モーメントマグニチュード $M_w$	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.9	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7/16 \cdot M_0 / R^3$	3.7 MPa	
平均すべり量 $D_{model}$	$D_{model} = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.3 m	
短周期レベル $A$	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \times M_0^{1/3}$	1.59E+19 Nm/s <sup>2</sup>	

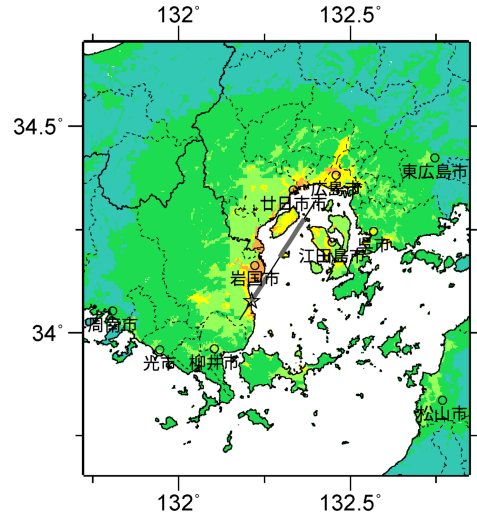


### 微視的断層モデルとその直交断面

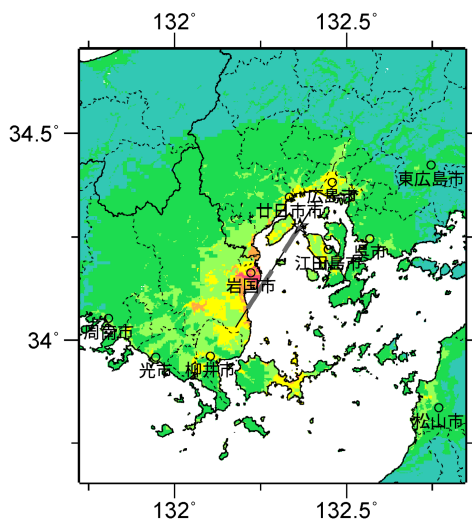
震源断層を特定した地震動予測地図：広島湾—岩国沖断層帯



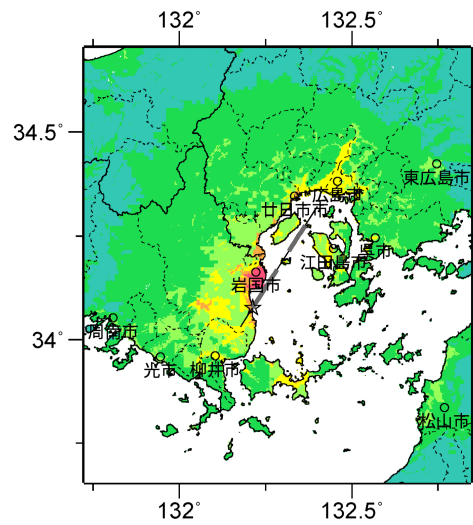
ケース 1



ケース 2

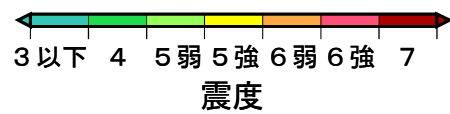
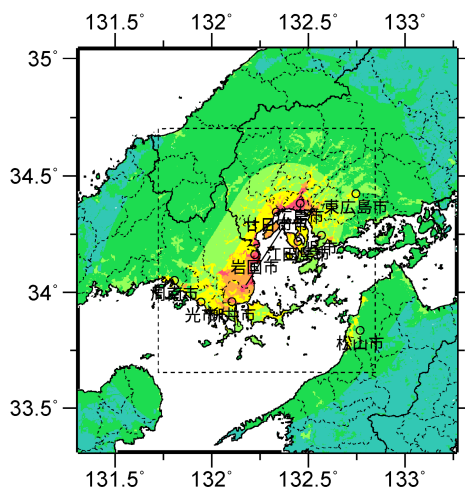


ケース 3



ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す.

簡便法震度分布

震源断層を特定した地震動予測地図：広島湾－岩国沖断層帯